令和６年度 日野市立第七幼稚園経営重点計画 自己評価シート 令和７年３月公表

|  |  |
| --- | --- |
| ★幼稚園教育目標 ○元気もりもり（こころもからだも元気な子ども）○友だちいっぱい（友だちが大好きな子ども） ○やる気まんまん（感じ、考え、表現する子ども）  | ★重点計画の概要 ・子供たちが自分たちの幼稚園として、日々楽しみながら生活を送ることができるように、「ひと・もの・こと」の環境を整え、様々な経験を積み重ねる中で、心が動くような体験や、自分のやりたいことを見つけ取り組もうとする意欲や、それを行動に移していく力を育んでいく。 ・幼児一人一人が自分らしさ出したり、互いを認め合ったりしながら安心して幼稚園生活を送れるように幼児の発達や個性の理解に努める。 ・様々な遊びを通して、人と関わる楽しさやいろいろな経験を楽しみ、豊かな経験の機会となるように意図的、計画的に進めていく。 ・家庭・地域と園が連携し、地域の資源を活用したり地域ぐるみでの子育て支援となるようにし、保育に取り組む環境つくりを進めていく。  |
| ★目指す幼稚園像（ビジョン） 【目指す園児像】 ○自分の思いを素直に表し、いろいろなことに意欲的に取り組む子ども ○友だちとの関わりを楽しみ、共に生活したり遊んだりすることを楽しむ子ども ○環境（ひと・もの・こと）に関わり、感じ、考えたことを主体的に表現する子ども 【目指す幼稚園像】 ○幼児が遊びを通して学びの芽を培う幼稚園 ○一人一人の発達や特性を受け止め認め合い、共に育つ幼稚園 ○子育ての悩みや喜びを共有し、保護者が安心して子育てを楽しめる幼稚園 ○教職員がそれぞれのもち味をいかし、互いに学び合う幼稚園 【目指す教師像】 ○幼児一人一人に寄り添い、幼児理解に努め、保育の資質向上に努める教師 ○幼児、保護者から信頼される教師 ○それぞれが自分の役割を理解して指導や支援に努め、意見を交わし合いながら協同していく教師 ○保護者、保育園、幼稚園、小学校、地域とよりよい連携を構築していく教師  |
| 領域  | 中期経営目標  | 短期経営目標  | 具体的方策  | 評価指標・評価基準  | 学校評議員・学校運営協議会の意見  | 結果の分析と改善策  |
| 評価点  | 取組指標  | 評 価点  | 成果指標  |
|  みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる  | 生きる力の基礎となる知識や技能を活用するために思考力・判断力・表現力を高める。  | 自分たちの生活がより豊かになるように、考えたり工夫したり挑戦したりなどの経験を繰り返しながら、興味・関心をもち進んで活動に取り組む。  | 子供が課題や目的や自分の役割を意識し、仲間と協力して取り組む活動を繰り返し行う。  | 2  | 4 子供が課題や目的を理解し自分の役割を意識しながら活動に取り組めるような指導を計画的に行うことが90%できた。  | 2  | 4 自分の課題や目的を理解し自分の役割を意識して進んで活動に取り組んだ子供が９０％いた。  | 保護者のアンケートからは、「満足」との回答がほとんどであった。意見としては、日頃の活動や大きな行事の取り組みでの子供達の声や、保育参観を通して、「挑戦する意欲がついた」「友達と協力して物事を決める姿に感銘を受けた」「助け合いながら活動する様子が見られた」などの評価が挙げられた。  | 活動の目的や指導内容について職員間で共通理解を心がけたことが子供達の進んで取り組む姿につながった。次年度は今年の経験を生かし計画的な実践につなげていく。指導においては活動の目的を個々が理解し意識して取り組めるように、視覚的教材などを用い工夫をする。それと共に、発達に応じて学級全体や、友達、仲間とのつながりをもてるような活動のあり方を考慮する。これらのことを踏まえて子供の活動の経験値、興味・関心を高めていく。  |
| 3 子供が課題や目的を理解し自分の役割を意識しながら活動に取り組めるような指導を計画的に行うことが８０％できた。  | 3 自分の課題や目的を理解し自分の役割を意識して進んで活動に取り組んだ子供が８０％いた。  |
| 2 子供が課題や目的を理解し自分の役割を意識しながら活動に取り組めるような指導を計画的に行うことが７０％できた。  | 2 自分の課題や目的を理解し自分の役割を意識して進んで活動に取り組んだ子供が７０％いた。  |
| 1 子供が課題や目的を理解し自分の役割を意識しながら活動に取り組めるような指導を計画的に行うことが７０％未満しかできなかった。  | 1 自分の課題や目的を理解し自分の役割を意識して進んで活動に取り組んだ子供が７０％未満だった。  |
| 子供たちが集団生活の中で、自分の居場所を感じたり互いに受け入れ合ったりすることで、 豊かな人間関係を築いていく。  | 子供たちが集団遊びを通して友達と関り合いながら遊ぶことを楽しむ。  | 子供たちの実態や発達に合わせた、少人数でも楽しめる集団遊びの指導法を工夫し、年間計画に位置付け継続的に実践していく。  | 3  | 4 少人数でも遊べるような集団遊びの指導を工夫し、計画通りに９０％実施することができた。  | 3  | 4 集団遊びに加わり友達との関りを楽しむ子供は９０%いた。  | 保護者のアンケートからは、「満足」との回答がほとんどであった。意見としては、「『こんな遊びをした』と嬉しそうに話しているのでそう感じる」や、「ルールのある遊びや勝ち負けのある遊びを通して心も成長したし楽しんでやっている」「協力する喜びや楽しさを感じていました。他者への興味関心の心を育んだ」「みんなで過ごす時間が増えるにつれて、集団の中で楽しめる子になった」と集団遊びの指導法の成果が感じられる評価が挙げられた。  | 園内研究で学期ごとに新しい集団遊びを行い、友達と関わりながら遊ぶ楽しさを積み重ねていくことができた。園内研究の話し合いの中で、遊び方をどのように導入したり発展させたりしていけるかを、学級の実態に合わせて話し合ったことで、子供達は自分達で遊びを作り出していく楽しさを味わったり、友達と一緒に集って遊ぶ楽しさを感じたりすることにつなげられた。今後も発達と実態に合わせた指導と遊びの工夫を計画的に行っていく。  |
| 3 少人数でも遊べるような集団遊びの指導を工夫し、計画通りに８０％実施することができた。  | 3 集団遊びに加わり友達との関りを楽しむ子供は８０%いた。  |
| 2 少人数でも遊べるような集団遊びの指導を工夫し、計画通りに７０％実施することができた。  | 2 集団遊びに加わり友達との関りを楽しむ子供は７０%いた。  |
| 1 少人数でも遊べるような集団遊びの指導を工夫し、計画通りに７０％未満しか実施することができなかった。  | 1 集団遊びに加わり友達との関りを楽しむ子供は７０%未満だった。  |
|  みんなの多様な学びとしあわせをつくる  | 一人一人のニースに応じた教育環境の充実を図る  | 子供たち一人一人が個性を発揮する喜びや、友達と一緒に生活する喜びを感じる。  | 子供の発達の特性や個性など、実態の把握に努めるとともに、言動や内面、心の動きについて、全職員で意見交換・情報交換を行うことで幼児理解を深め、指導体制を充実させる。  | 2  | 4 職員間で指導と支援の内容や方法の工夫について、情報共有や話し合いを各学期に３回以上行った。  | 3  | 4 自分の力を発揮し、友達と一緒に生活することを喜んだり楽しんだりした子供が８０％いた。  | 保護者のアンケートからは、「満足」との回答が多かった。「よく見ていただきアドバイスもいただけた」「工作で子供の感性を否定しない」「苦手なことや、その場面での対応まで考えてくれた」「苦手なことも否定せず指導してくれている」「個性や興味を肯定的に受け止めてくれている」などの意見が挙げられた一方で、「色塗りをしていたときに自分だけ褒められなかったと言っていた時があった」という意見もあった。  | 園長や担任は幼児理解や指導について発信する機会はあるものの、職員によっては話す機会が少ないことから、定期的に職員が幼児のことや指導について話をする機会を設けるようにしてきた。いろいろな職員の話を聞くことで、幼児を多面的に捉えられたことが幼児理解の深まりとなり、保育や指導のアイデアにつなげられ指導体制の充実になったので、今後もこのような機会を作り一人一人が力を発揮していけることにつなげていく。  |
| 3 職員間で指導と支援の内容や方法の工夫について、情報共有や話し合いを各学期に３回行った。  | 3 自分の力を発揮し、友達と一緒に生活することを喜んだり楽しんだりした子供が７０％いた。  |
| 2 職員間で指導と支援の内容や方法の工夫について、情報共有や話し合いを各学期に２回行った。  | 2 自分の力を発揮し、友達と一緒に生活することを喜んだり楽しんだりした子供が６０％いた。  |
| 1 職員間で指導と支援の内容や方法の工夫について、情報共有や話し合いを各学期に 1 回行った。  | 1 自分の力を発揮し、友達と一緒に生活することを喜んだり楽しんだりした子供が６０％未満だった。  |
|  社会と未来に開き、みんなでつくる  | 地域の方や保護者を活用した体験の場を通して、多様な立場の人の存在を知り、関わり方を学ぶ。  | 地域の方や保護者の協力を得た多様な体験の中で、喜びや感謝の気持ちを通して、多様な人との関わり方を知る。  | 子供が喜びや感謝の気持ちをもち、進んで取り組むことができるような活動を、地域の方や保護者と協働して計画する。  | 2  | 4 子供が喜びや感謝の気持ちを表現しながら進んで取り組みたくなる 活動を計画通りに行った。  | 3  | 4 地域の方や保護者に、体験した喜びや感謝の気持を表現した子供が ８０％いた。  | 保護者のアンケートは「満足」が多かった。地域との活動には「親の出来ることよりも豊かな体験をさせてもらえた」「専門的に指導していただきよい経験になった」等、保護者の参加や見学した活動には「子供と共感しながら会話できるのが良い時間」「親だけの会も貴重な体験」とある。 又、保護者の協力を得た活動も「社会性を育てることにつながる」「子供からありがとうを言わせるのが良い」「自分も楽しかった」とあり、他に「父親の参加できるものがもう少しあるとよい」「感謝の気持ちをもっているかはわからない」という意見もある。  | 活動の準備段階で相手側に幼児の実態や活動のねらい、経験させたい内容など、園側の意図を理解してもらった上で実施したことにより子供達が楽しめた経験になった。活動で感謝の気持ちを伝える場では子供が笑顔でお礼を述べていたが教師が音頭を取ることが多くなりがちだった。できるだけ個々の声を伝えるよう計画し、子供間で刺激となったり共有したりして心情を育み、相手側にも具体的に感じられるようにし、相互によりよい活動となるようにする。  |
| 3 子供が喜びや感謝の気持ちを表現しながら進んで取り組みたくなる 活動を計画の９０％行った。  | 3 地域の方や保護者に、体験した喜びや感謝の気持を表現した子供が ７０％いた。  |
| 2 子供が喜びや感謝の気持ちを表現しながら進んで取り組みたくなる 活動を計画の８０％行った。  | 2 地域の方や保護者に、体験した喜びや感謝の気持を表現した子供が ６０％いた。  |
| 1 子供が喜びや感謝の気持ちを表現しながら進んで取り組みたくなる 活動を計画の８０％未満の実施だった。  | 1 地域の方や保護者に、体験した喜びや感謝の気持を表現した子供が ６０％未満だった。  |
| 近隣の施設や同年代の子供たちが共に過ごしつながる場作りをする。  | 年代の近い子供たちとの交流で様々な興味ものごとに興味・関心を広げながら活動に取り組み、人との関わりを楽しむ。  | 幼児園としての保育園との交流や、近隣施設の年齢の近い子供たちとの交流活動に進んで参加し、人と関わる楽しさが感じられる内容を、交流施設の職員と共に計画する。  | 3  | 4 交流施設の職員と共に、子供達が楽しみながら関わったり活動に参加したりすることができる内容を工夫した計画の９０パーセントを実施できた。。  | 3  | 4 交流相手との関わりを楽しみながら活動に取り組んだ子供は９０%いた  | 保護者のアンケートは「満足」が多く、小学校交流では「知らない所から知っている所になり不安が小さくなる」「小学生と触れ合う機会は継続してほしい」と挙げられている。二幼交流では「友達の特性も理解していて興味は広がっている」とある一方で「リソースに使われすぎている印象だった」ともある。色々な交流をしてきたことには「多方面の交流は今の時代に大事である」「少子化なのでありがたい」「人との関りに抵抗なく交流してよい経験になっている」とあり賛同する意見が多数である。  | 小学校交流では、年度初めに管理職を含む職員で大まかな内容と日程調整を行ったことで、計画的に進めることができた。二幼交流は初めてであったが、公立園同士で連携は計りやすい利点はあった。また、児童館では園内で出来ない活動を体験することができた。各施設の体験がそれぞれの子供達に互恵性をもたせた活動として取り組めるような内容を考え、計画的に進めていく。  |
| 3 交流施設の職員と共に、子供達が楽しみながら関わったり活動に参加したりすることができる内容を工夫した計画の８０パーセントを実施できた。。  | 3 交流相手との関わりを楽しみながら活動に取り組んだ子供は８０%いた  |
| 2 交流施設の職員と共に、子供達が楽しみながら関わったり活動に参加したりすることができる内容を工夫した計画の７０パーセントを実施できた。。  | 2 交流相手との関わりを楽しみながら活動に取り組んだ子供は７０%いた  |
| 1 交流施設の職員と共に、子供達が楽しみながら関わったり活動に参加したりすることができる内容を工夫した計画の７０パーセント未満の実施だった。  | 1 交流相手との関わりを楽しみながら活動に取り組んだ子供は７０%未満だった。  |

※評価指標・評価基準は、２の段階を現状としています。